

# J T P (2488)

2025年7月23日

執筆担当者：QUICK 企業価値研究所 前田俊明、小勝智恵

## ○会社概要

### ICTシステムの設計・構築から運用・保守までを手掛ける

ICT（情報通信技術）システムの設計・構築から運用・保守までを手掛ける独立系SIer（システム構築業者）。近年は、クラウド環境の設計・構築から運用・監視までを網羅するサービスに注力。IT人材の教育サービスやAI関連サービスを提供するほか、医療機器の保守サービスなどのライフサイエンス事業も手掛ける。

同社の事業は二つの柱から成る。一つは、祖業のアウトソーシング事業であり、専門的な技術サービスで海外のICTメーカーや医療機器メーカー、化学分析メーカーの日本市場への参入を支援するもの。もう一つの柱が、そのアウトソーシングで培った知見を生かし、独自のサービスとして提供するソリューション事業である。現在、これらの事業は顧客の多様な要求に的確に対応するため、4つのセグメントに分けて運営されている。

#### ▶売上構成（25/3期単独、外部顧客への売上高）

デジタルイノベーション 24%、ICT54%、ライフサイエンス 21%、その他 1%未満。

#### ▶ビジネスモデル、事業戦略等

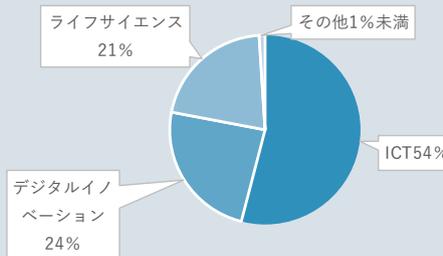
同社のビジネスを継続的に収益が得られるストック型と、単発の契約が中心となるフロー型のビジネスに分けると、デジタルイノベーション事業では、内部脅威対策関連サービスや Third AI 関連サービス、Learning Booster といった自社サービスがこれに該当する。ICT 事業では ICT システムの常駐運用サービスや Kyrios サービスなどのシステム運用がストックビジネスになる。対照的に、システム構築は一部で期間固定契約があるものの、大半がフロービジネスに該当する。ライフサイエンスもほとんどがフロービジネスになる。

### 株価・指標

（表示単位未満四捨五入）

|                    |           |
|--------------------|-----------|
| 株価(25/7/22 終値)     | 1,437.0 円 |
| 年初来高値(25/6/27)     | 1,484.0 円 |
| 年初来安値(25/4/7)      | 968.0 円   |
| 単独 PER(26/3期会社予想)  | 13.66 倍   |
| 単独 PBR(最新実績)       | 2.24 倍    |
| 基準 BPS             | 641.05 円  |
| 予想配当利回り(26/3期会社予想) | 2.99 %    |
| 1株当たり年間予想配当金       | 43 円      |
| 普通株発行済株式数          | 6,016 千株  |
| 普通株時価総額            | 86.4 億円   |

### 売上構成



### 株価チャート



◇本資料は会社側の資料・見解および事実報道等を要約したものであり、執筆担当者自身の分析・評価および特定の見解を表明したものではありません。  
◇本ページの図表の個別注記以外の説明および出所は、後掲の<データの説明>にまとめて記載しております。

## ○業績動向

### 26/3期は自社ソリューションサービスの拡販を目指す

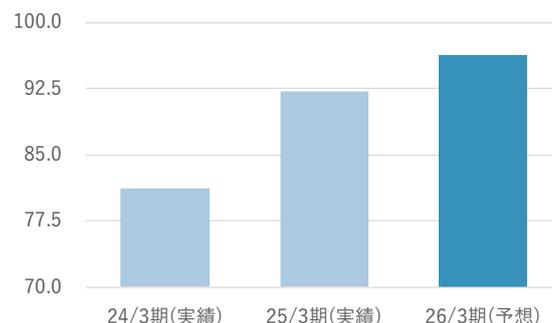
※実績：25/3期は13%増収、30%営業増益。過去最高を更新

25/3期の単独業績は、売上高が前期比13%増の92億円、営業利益が同30%増の8.2億円となった。ICT事業が牽引し、いずれも過去最高を更新した。主な事業では、デジタルイノベーション事業は、売上高が同24%増の22億円、セグメント利益が同24%増の1.8億円。人財育成ソリューションは顧客企業と直接取引形態のICTトレーニング請負が増加した。DX開発サービスはOEM（相手先ブランドでの提供）形態の生成AI関連サービスが増加した。ICT事業は売上高が同11%増の50億円、セグメント利益が同34%増の12億円。システム構築サービスは、クラウド関連やガバメントクラウドの大型スポット（一時的）案件の受注が重なり、エンジニアの稼働率は年間を通じて高く推移した。システム運用サービスは、エンドユーザー（実際にシステムを利用する顧客企業）と直接取引する形態のクラウド運用サービス「Kyrios（キリオス）」などが伸びた。

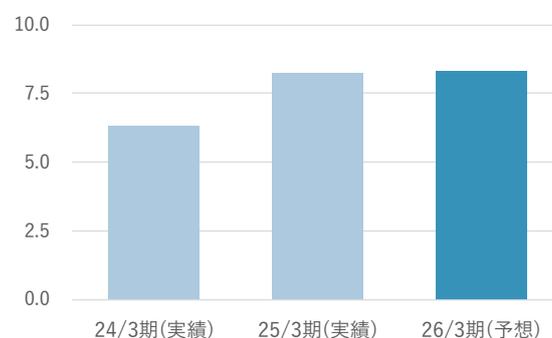
※業績見通し：26/3期は5%増収、1%営業増益を計画

26/3期の単独業績について会社側は売上高96億円（前期比5%増）、営業利益8.3億円（同1%増）を計画。ICTサービス市場は、デジタルトランスフォーメーションやIoT、AIといったテクノロジーの活用による業務効率化に対する企業の期待が高い状態が続いており、それらに対する企業の投資は拡大傾向が持続すると予測。今期は第2次中期経営計画の3年目にあたり、知恵集約型のビジネス形態への完全な転換を目指し、各種の施策に取り組む。

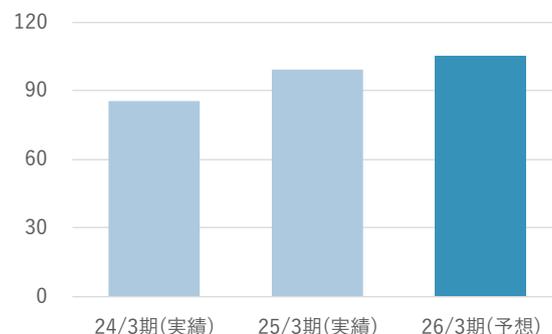
売上高(億円)



営業利益(億円)



EPS(円)



(出所) 会社資料、QUICK Workstation で当研究所作成

### 業績データ 会計基準：日本基準

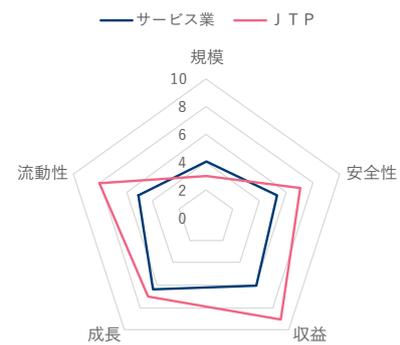
(%は前期比増減率)

| 決算期         | 売上高(百万円) |       | 営業利益(百万円) |       | 経常利益(百万円) |       | 純利益(百万円) |       | EPS(円) |
|-------------|----------|-------|-----------|-------|-----------|-------|----------|-------|--------|
|             | 金額       | %     | 金額        | %     | 金額        | %     | 金額       | %     |        |
| 単 24/3期(実績) | 8,119    | 10.0% | 631       | 38.6% | 665       | 42.6% | 482      | 57.9% | 85.66  |
| 単 25/3期(実績) | 9,211    | 13.4% | 820       | 29.9% | 828       | 24.4% | 562      | 16.6% | 99.28  |
| 単 26/3期(予想) | 9,632    | 4.6%  | 830       | 1.2%  | 830       | 0.2%  | 600      | 6.6%  | 105.23 |

注：予想は会社予想。ただし、予想EPSは会社予想純利益をベースに当研究所で算出している

## ○沿革、企業分析レーダーチャート

1987年、日本サード・パーティとして設立。80年代には、海外では技術サービスのアウトソース(外部委託)が製品を販売する企業とアライアンス(協力関係を結ぶこと)を組んで行う事業として確立していた。高い技術力を持ち、メーカーでもユーザーでもない第三者(=サード・パーティ)が技術サービスを提供する。これが「日本サード・パーティ」の社名の由来である。創業翌年の88年には関西事務所、名古屋市に東海サービスセンタを設置。91年には福岡に九州サービスセンタを設置し、全国に拠点を拡大していった。21年、社名を顧客から親しまれていたJTPへ変更した。



(出所) QUICKスコア

### <データの説明>

- ・株価高安値：表示期間中の株式分割等の影響は調整済み。市場変更があった場合には市場変更後の高安値を表示
- ・PER(予想)・PBR(実績)：PERは株価収益率、PBRは株価純資産倍率の略。PER(予想) = 株価 ÷ EPS(予想)。PBR(実績) = 株価 ÷ BPS(実績)。“-”(ハイフン)の表示はEPS・BPSがゼロもしくはマイナスの場合、EPS・BPSが非常に少額でPER200倍・PBR20倍を上回る場合、EPSの予想値がない場合、変則決算のためPER(予想)の算出が不適当な場合など
- ・EPS(予想)・BPS(実績)：EPSは予想1株当たり利益の略で、普通株主に帰属しない配当を控除した予想純利益を用いて算出。“-”(ハイフン)は利益予想がない場合。この算出に用いる株式数はQUICKが日々算出する直近の普通株発行済株式数(自己株式除く)を使用。BPSは直近実績の1株当たり純資産の略で、QUICKが日々算出する1株当たり純資産を使用。株式分割等の影響は遡及修正している
- ・配当利回り：1株当たり年間予想配当金 ÷ 株価。“-”(ハイフン)は配当金予想がない場合、変則決算の場合
- ・年間予想配当金：株式分割等の権利落ちがあった場合には遡及修正した1株当たり配当金を表示。“-”(ハイフン)は会社予想がない場合、変則決算のため年間配当金としての表示が不適当な場合
- ・普通株発行済株式数：QUICKが日々算出する直近の普通株発行済株式数(自己株式含む)を表示
- ・普通株時価総額：株価 × 上記の普通株発行済株式数
- ・株価チャート：表示期間中の株式分割等の影響は遡及修正済み。また、市場変更があった場合は新旧両市場の株価を連続的に描画している
- ・業績データ：会計基準の変更などに伴う過年度決算数値の遡及修正は会社が開示している範囲内で反映している。純利益は親会社株主に帰属する当期純利益。米国会計基準、国際会計基準において非継続事業が発生した場合は、原則として純利益を除き継続事業ベースの数値を表示
- ・企業分析レーダーチャートは、QUICKスコア(※)より以下の5項目を抽出。規模(企業規模の大小を表し、スコア値が高い銘柄ほど企業規模が大きい。構成要素：時価総額、売上高、総資産)、流動性(流動性すなわち売買のしやすさを表し、スコア値が高いほど流動性が高い。同：平均売買代金[25日]、売買回転率)、成長(企業の過去および将来における売上や利益、資産の成長性を表し、スコア値が高いほど成長性が高い。同：売上高成長率[3期平均]、経常利益成長率[3期平均]、総資産成長率[3期平均]、予想売上高伸び率[今期・日経予想]、予想経常利益伸び率[今期・日経予想])、収益性(企業の収益性や利益率を表し、スコア値が高いほど収益性が高い。同：ROE[自己資本利益率]、ROA[総資産利益率]、売上高経常利益率)、安全性(企業の財務的な安定性を表し、スコア値が高いほど安全性が高い。なお、銀行など金融事業を営む企業は、事業の特性上、自己資本比率が小さく、安全性スコアも低くなる傾向にある。同：自己資本比率)を表示。

(※) QUICKスコア：国内上場全銘柄を対象に各スコアの構成要素の値を順位付け後、順位(グループ)を点数化したもの。点数は最上位グループを10とし、以降降順に付与。各項目に複数の構成要素が含まれる場合は、その全構成要素のスコア平均値を採用。

- ・売上構成はセグメント等で調整されることがあり、合計が100%とならないことがあります。
- ・出所：株価・チャート等はQUICKのデータベース。業績データ・予想配当金等は決算短信、有価証券報告書、その他会社開示資料

## 株式会社QUICKからのお知らせ

本資料は、本資料の対象会社、株式会社QUICKおよび野村インベスター・リレーションズ株式会社の3社間の契約に基づき、株式会社QUICKが作成したものです。

本資料の各ページに注記している通り、株式会社QUICKは、本資料の作成に当たり対象会社からスポンサー料を受領しているため、本資料の執筆者は対象会社から独立した立場にありません。

本資料の執筆者は、対象会社の公表済み事実・情報、並びに一般に入手可能な情報の範囲で、正確性・客観性を重視して本資料を作成しております。

なお、株式会社QUICKは本資料の正確性・客観性を確保する態勢を整備し、対象会社との契約においては、対象会社は事実誤認による記載についてのみ訂正を要求できるよう定めております。

## 免責事項

- ・本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。株式・債券等の有価証券の投資には、損失が生じるおそれがあります。投資判断の最終決定は、お客様ご自身の判断で行っていただきますようお願い致します。
- ・本資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて株式会社QUICKの一部門であるQUICK企業価値研究所が作成したものです。同研究所は、同研究所が基にした情報およびそれに基づく同研究所の要約または見解の正確性、完全性、適時性などを保証するものではありません。本資料に記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更される可能性があります。
- ・本資料を参考に投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、株式会社QUICKは、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- ・本資料に関する著作権を含む一切の権利は、株式会社QUICKまたは情報源に帰属しており、理由の如何を問わず無断での複製、転載、転送、改ざんおよび第三者への再配布等を一切禁止します。

## 野村インベスター・リレーションズ株式会社からのお知らせ

本資料は、株式会社QUICK、野村証券株式会社、野村インベスター・リレーションズ株式会社が共同で企画し、株式会社QUICKが作成、野村インベスター・リレーションズ株式会社が配信をしています。よって、本資料は、当社が正確かつ完全であることを保証するものではありません。使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましては、当社はその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は、株式等についての参考情報の提供を唯一の目的としております。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断でおこなってください。なお、本資料は金融商品取引法に基づく開示資料や外国証券情報ではありません。本資料は提供させていただいたお客様限りでご使用いただきますようお願いいたします。